

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念として、「当たり前、普通の生活を送る」ことを掲げており、「その人らしさ」を大切にしよう、手作りで家庭と同じような環境を作ることを目指している。		毎日、利用者全員が散歩へは出れないが、当番表を作成し、3日に一度は必ず散歩ができるように工夫をしている。犬が仲間入りしたことで、利用者の散歩の機会が増えている。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	小さな規模だからこそ出来ることもあり、普通の家庭を意識した取組みがなされている。月1回、定期的に園内研修を行っており、利用者の高齢化への対応や感染症対策などを課題として捉えている。		職員全員が園内研修に参加できるよう、日程の工夫をしている。今後、研修の質の部分での向上が期待される。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	犬の散歩時、近隣の人達との会話がふえ交流ができてきた。学校行事や地域のイベントには積極的に参加しており、子供会主催のゴミ拾いにも参加している。		今後、公民館で行われるふれあい喫茶への参加を通じて、婦人会、老人会、地域の人との交流を図っていく予定。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年、継続的に外部評価を受けることで、改善点や目標の設定に役立っている。また、自己評価の内容について職員で話し合い、ホームとしての実践を振り返っている。		第三者評価における改善点や、利用者家族のアンケートの結果を踏まえて、園内研修のテーマ設定を行ない、今後のサービス向上につなげている。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、奇数月毎に開催しており、行政、民生委員、婦人会、利用者、利用者家族など意見交換が行われている。運営推進会議を通して、グループホームへの理解も深まり、参加者からの意見も活発に出るようになってきた。		忙しい中、運営推進会議に参加してよかったと思える会議運営にしたいと考えており、会議運営への取り組みを望む。
6	9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	昨年度までは、ボランティア組織作りなどで、市町担当者との意見交換を頻繁に行っていたが、現在は止まったままで余り進んでいない。		施設行事や園内研修時などに来園を促すなど、取り組み方について工夫が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者家族の訪問時や年2回の家族会で報告を行っている。以前は、園内での生活の様子を定期的に通信で伝えていたが、現在は発行が出来ていない。		再度、通信の定期的な発行へ向けて取り組み中であり、今後、どのように発信していけばよいかを模索中である。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	前の管理者が、戸別訪問を行っており、その時に家族との関係性を構築している。利用者家族とのコミュニケーションを大切に、苦情や意見を話しやすい関係をつくることにより、事業所として一つひとつ対応している。		個別対応において、利用者家族宅に訪問したり、メールにて対応したり、その時の状況にあった対応を行っている。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職に至らないよう現場の主任と連携し、職員の動きを意識して見守り、楽しく働くことができるよう支援している。今のところ、職員の交代において、利用者の混乱などは生じていない。		職員のストレスが大きくなるないように、管理者として意識的に働きかけている。 (職員を家族の一員として見守っている)

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の福祉関係諸資格取得への働きかけを行っており、実践者研修は全員に受けたいとの希望あり。また、研修への参加も促し、シフト組みの変更など、できる範囲で園がフォローしている。</p>		<p>園内研修を月1回定期的に行っている。現在緊急性や必要度の高いものをテーマに行っている。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム会議において、同業者相互の情報交換を行い、同業者一同のサービスの質の向上へ向けての会議を開催している。</p>		<p>グループホーム会議への参加によって、職員のモチベーションがあがり、園全体のサービス向上へつなげることが期待される。</p>
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者本人、家族とコミュニケーションを深め、その人にあった方法で馴染めるように工夫をしているため、入居時の混乱はすくない。新規利用者に関しては、その人にあった方法で馴染めるように工夫している。</p>		
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>園の理念として、小さいからこそ、その場その場での対応にも柔軟に対応することが出来ると思いい、利用者一人ひとりとのふれあいを大事にしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	利用者一人ひとりの思いや意向を把握するため、定期的に利用者の家族にアセスメントを行ったり、3ヶ月に1度職員全体でケアカンファレンスを行っている。その内容をもとに利用者の担当職員がアセスメントシートに記入を行っている。		アセスメントシートの記入等に職員に勤務の加重とならないような配慮、工夫が課題としてあげられている。
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	利用者一人ひとりのアセスメントが定期的に利用者本人や家族、必要関係者と行っているため、計画の立案に関しても随時見直しを行いやすい環境が整っている。		アセスメント作成や外部からの情報入手に対応して、PCの効率的な活用が課題となっている。
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	利用者ごとの介護計画の見直し期間が把握できるよう、年間を通じたスケジュール表が作成され、時期に応じた見直しがなされている。なお、利用者の状態の変化などに伴って、利用者を中心に家族、職員、必要関係者とともに、介護計画を即座に見直すよう、取り組まれている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	共用型サービスとしての多機能性も視野に入れて行政にも働きかけを行っている。地域の窓口として入所に対する介護相談にも応じている。		事業所の経営、実務を担っていく職員の増員の必要性があることと、代表者だけではなく、複数の職員が、より多くの情報を収集し、今後の多機能性の充実に向けて出来ることから展開を進めていくことを期待する。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との連携もとれており、利用者の状況、希望に応じて他の医療機関や専門病院へも受診を行っている。医療機関とは連携の強化を努めている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化や終末期のあり方に関しては、利用者や家族の思いを受け止め、その都度話し合いを設けている。他の利用者への精神衛生上の影響も大きく、状況に応じた受け入れ施設の確保にも努めている。		重度化、終末期に向けて、単独型グループホームとしての役割からは限界があるが、主治医との連携、家族との協議により、ほぼ終末期ケアを実施されている。今後も受け入れ施設の確保が求められる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護記録の保管、居室の確保、サービス提供上のプライバシー保護に関しては、配慮されている。利用者一人ひとりの個人の尊厳を大切にし、家族の一員のように働きかけを行っている。		プライバシーの保護や個人情報保護に関しては、職員の良識に委ねてしまいがちになることから、基礎となるようなマニュアルの作成を整備されることを期待する。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護計画作成時に利用者より聞き取りを行い、アセスメントシートにきろくされていることから、利用者本位の暮らしを基本において支援されている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳、下全、料理の下ごしらえなど利用者と共同で行っており、利用者の状況に応じて役割を持ってもらっている。利用者が好まれるメニュー作成を行っていくうえで、利用者いくつかの選択肢を用意し、食事を楽しむことのできるよう、取り組まれている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の重度化に伴い、入浴におけるタイムスケジュールを組まざるを得ない状況になっているが、入浴を安全、快適に行ってもらう配慮、工夫をされている。たまに近所の外風呂にも出かけられている。		午後の時間帯を中心に、週二回の入浴が確保されている。前回の調査後、浴槽の改修も行なわれ、週に5回までは対応が可能になっており、機械浴導入にも手作りの工夫がされている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者全員で出展するための作品を作成されたり、個々の利用者の作品や生け花などが施設内に飾ってあり、楽しみごとに対しての支援がされている。利用者によっては日々の生活の中で役割を持って取り組んでおられる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の重度化に伴って、外出する支援が困難になる方もあるが、利用者の希望にそって庭で戸外の様子をみたり、食事を行うなどの配慮をされている。外出を好まれる利用者とは買い物、犬の散歩などを職員と同行して支援している。		庭に植えている草花も、切花にしやすいよう背の高い種類を取り入れたり、住宅の周辺整備に取り組むなど、積極的な支援が評価できる。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上の面から警察より出入り口の門の施錠に関しては注意するよう連絡があり、職員が退出する夜間から出勤する早朝まで施錠している。この門以外は施錠は行っていないが、利用者によっては鍵をかけたがる方もあり、利用者自ら鍵をかけられた場合には安心されるまで、職員がそばに居て対応する。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回防災訓練を実施する際、運営推進会議において地域の代表の方にも協力をおおぎ、近隣宅、委員宅へ緊急通報の訓練も実施されている。非常ベルも実際に鳴らし、利用者の状況の把握もされている。		防災マニュアル等行政との連携が必要である。緊急連絡網の整備、今年度中にはスプリンクラーも設置され、評価出来る。非常食の点検や補充の点検も引き続き継続されたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の記録もしっかりしており、衛生面での取り組みも評価できる。利用者の日々の状況に応じて、食事の形態に工夫し、食事、水分の摂取量を毎日24時間体制で記録をとり職員全員が把握できるよう、支援されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改修型で大きな庭に季節の木や果樹、花々、野菜が植えられており、その時に応じた季節感を味わうことができる。周囲も田園が広がり環境が充実している。居室の配慮もされており、利用者に希望に応じ、ベッドから布団に変更している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のなじみの品を配置しており、食器など一人ひとり違ったものを使用されている。利用者の今まで大切にしてきたものを共用のリビングにおくなど、配慮され居心地よく過ごせる環境づくりをされている。		

は、重点項目。